WA 7
(3)止
157

国立国会図書館　タイトル『鴉鷺合戦物語 : 3巻』 請求記号 WA7-157

ガラス使用

WA7
157

帝國圖書館藏

鴉鷺物語下

鵜燕乃落書生田森の爲濤つ射うちもみ宮殿山へ
儀松と送狼在儀の事
城方ハ小谷と為ハ用くいけうち殺さうひハ
いつ迄をあひたりひ乃るすあ敷ハあさけあくを
さうこまる筋に入をうれさはうわ屋さーふ色者
とも筋舎獄囚の名をくさして雲を遠ハ思ひいの
もうわとうあうを迄ハ燕をいけうちなを
さうを拭日をいそ水はくくうへ里ーハ屋うまれ
大納云乃うさへくをいふんくうしはうひおい
つけてうのようをかうを里しうハすかうちとり
てのへしはく西素を見つくさーうひの義理激ー

小汀文庫
書 48.2.8 国会図
968328

国立国会図書館　タイトル『鴉鷺合戦物語 : 3巻』 請求記号 WA7-157
ガラス使用

りつくゆうきんなるかゝふ而あの名ゐまとも
夫とる方乃なゝひとてゝゝ後りゆかぬみち
乃りゝきおもひよ志川こぬまはよそ共見るめを
志ひまゝと云ゐあの里をり中略よ里鳥のゝゝへ
いなく余島乃事いヤに及りゝつゝめ也吳朔乃名
成を禁獄の沸さゝ不仮乃次弟分利他國の思ひた
とヤ別義乃はかさけをりゝつくゝかゝ遣はなん
せいゝへとゐまをゆ知さすその外りを
ゝりの鳥乃ゝゝと尾乃ゝ後きりあり名を
くめつゝ義車ゝヤあひて後冷泉院のは
はゝそかゝふ鳥をあふこの國ゝりゝそまりし
をかゝて忍せゝれゝりじこのゝかゐの内ゐ

たゝひなく世よれ可後ゐ名ゐ
ゆゝゝゝゝと雅り知をりん
と續しなん世界ゐあまはちゝ
うかといひゐ小中略乃まんよ義書を巳さり
山ゝゝゝらいゝゝゝくなをぬとも
ゝゝさゝ抱を共つくゝ
山蔭の菊ゐ山高成ゝくのさ後ゝりもをめゝゝ
ゝさなりあゝをいさんや燕乃左ゐ冊ゝゐゐゝ
よをそよゝゝゝん世してきやけゝなゝゝをゝゝぬ
抱ゝりそをゝゝ的ゐ里言ゐいゝ成を天下乃車
さりゝ抱をゝゝをゝく他をゝゝゝひゐ世ゝ下ゐ
乃ゐ共ゐはうををさゝりゐまゝゐいゝ口をゐゝ

雪よあつまれとまふかりうる風情みきんとも中くゃ
はなはふきやけうちうを撥色さんとておなんし
くふ変よあるものゝ云ふをけをくゝとさかさ
あとあそいはもぬふもいへを落書いしくいわた
ふ安ゆきをもふといひうるもくるゝ〜〜ゝけと
いふうてこの言をよめ里
弟乃さきれいやゝきのみうち涙さん
うさ海〜うゝ〜くんてねきん
鶏の法湯かゝ殿ハ山雀の花又とうひて祇園林乃
およ立ゝう鶏色を見く大ふいうつて今夜の合戦
ふを自余よハ月城かくまゝ山雀ふわさるあひで
こくびけりんて一志ゑ志めそうれめをみきんと

そのゝゝりくふある者鶏ゝさをあまくゝて盗
人のけ西石いてのなるいくまゝ迷ふそゝやらんさんひ
西月ゆきゆ車ふ迷ともわまゝらう先祖ゝそひ老
くゝをぬうてゑいゝ乃狂ふ郭公のゝ乃科を云
てむさゝせゝめて花角ひくゝるまゝたうひに犯ゝう
かとくゝきゝいい海もひゝを思おてこいゝ言かとゝ
きゝこの唱ゝ対ふい找ふいゝく迷ひな利けゆへふ
鶏とくゝて香花中行ふ重とそのゝ重々ふ祇園
林ふそゝくうひ西祢ふて而ゝいく田ゝう犯祢
そゝ里て云昨日一日の合戦作しふとう乃剣ゝ
及ひみかゝされいくゝさ屋ふれて森乃烏傳つの気及
高後乃海拾あそりゝどゝけれ剣のをゝうふけゝう

めさまして生田川より西門まで世のひんをゑやて来り
作とて松をうゑ出をゑまは今日俄にいて驚乃
つをゑ丈よりひろ野きあひうきあつて海
海ふ川山野乃万木雲れ不忘のとゝかゝる
ふけら迷に屋ふりやふらまとまへうし波
敵ゆゝてちんさいちくふきはまとまれうくり
れりわみくさ乃いくさをてにやふまぬ生死の時
気急より刻来ゑ弓矢れ義伝そいをひせんのゑ
ゝて波のそこにゑ川ひうゝひらくハ来と死を一
不よせさる事と福武ゝ朋塞ゝとゝうまし
と我く熱書をきゝ分屋ゝまゝ仲ぬゝ屋寺
ふちゝうゝ絶しひそゝふ怨恨を貴備ゑにのふまい

いゝさつゝに西海乃波より西川むゆゝふとまたま
ぬハ伝そ来山林ゝりけらさらん不宜諸ゝ

九月六日　　森爲清門尉

謹上東帝法敬

とゝそ書たゝ伝ゝまゝと云あまゝと云大史うゝきゝ
て言所山乃伝侶佛法像といふゝ多ハ爲のたくひと
いふせいのあゝかきをたのみてうんとそゝ絶みふ
てうそうにそ松ゝ云

飛蘭林爲條　　金財峯寺衛尚

特殊蒙一味同心合力以佛法傍威力速追伐邊於中
鴨住山城寺漢寺正豪寺中其金聲松風空寺野山有
浪直容獣世務利養業卜家冥死人后世人呼号佛法

偽訪故則是我等民族爲烏烏一類云云依之兎眷烏夫破
邪敵正佛法大庭罰惡賞善天道所載至可罷老天罷
而亟素其心猛惡又放逸也元亨生夏恥他玄玄暗受
隙侵性貪盧至内見騙闇眼字撲塞耳然武王有欲明
說治乱之指藉重疊其咎如山曰茲今月六急起義兵
押寄中鴨時青矢合鶏州始而大手搦手及五十度出
火戰以名其思恥伯輙令塵芥還重〻義令石砂輕骸
立居所内血流涌鹿河繰馬蹄塵掃天士率師呼卿吾
雲及至梟首雌雄交及身方死亡也半戦士矢氣不堪
合戦本陣別退立廻計軍籌切馬射兵落力悩絶矢孔
刀折未喰若化三宝冥助何以殊戮亟素憑幼他已不
情力令況於至仏黨設雖為冥治隙士力爭不助一類

恥辱余有山中玆島悉疵僅速疾可有泰洛努〻力及
遲怠故條状

烏鵲元年九月日　　東市佐林玄玄

と書てそをくりゝ〻ゝ其色録云
言野山巨條

来録一紙被載可謀罰山城寺亟素散其憤夏
竊以玄如一色混綸黒白法身元相何善悪雖然元神
一念迷闇忽失本真是佛顛倒元明迷雲浩漠常住
妙法月以来三界六道沉惱不知其期爰我等愁眠多
生昔固生来古幸以逢西教誠是優曇相現盲龜浮木
喜有餘老哉而余死一暑蒿石火早敵泡沫散後迎像
何臭胴焰拍焼数雖多雖仏貴泉遠旗親族雖眠仏助

談羅裁斷思皮黍山宿寢元安心抑言聖山八葉心連
孤九羽嶽上古世峯高鷲峯絶頂雲頭如山深谿巨山
中色至眼鞏山若罷障悉滅后皮輩出離速進依之任
大師入定傍唱三宝御名祈一仏佛果之所願不應催
安而悩仏思而斷腸類水浪洗耳若復有幽若可易所
歎思屢觀現立彼戒无慙恥若當況三途八難苦海憂
苦永失二世悉地久苦三恥牢獄言語道断之次第不
可說之四恥録

烏鵲元年四月日　　業門妙島

とて書うけ侍る

鶏鳴尅時士卒法九月廿六日合戦鶏鳴發仏事
長元山拔を見くさ――元教法の言野を同仏事

いのくをへ業とて鶏鳴尅時士卒法合戦知時云言
野山さやうふゆ――せはとて合戦をとくまのへ義
ふあ〳〵仏菩薩なんとなく法をこそ法ふくなかさを
くさらひ仏の御ゆ今度乃合戦ハ分りとりてのの
ちやうひとあらに義四仏くるるあるはいきて
二たひ法月うりかゝふ度ゝさまはひよくと
志多子ともをはひみれさうひふあり大和國
立田れ寺ようれを世ぬ今いハ思ひ至ゆなくてん
やをしせいひられた微りたのゝく義ふを
覚えをる先國くせさくいい法拡乃鶏をうさらひ
ゝり小野の鶏ハ合力ゆ度ゝ久れハ情ゆ童祈勅の子
面をてまいゝとと云志田ハ位吉一祈乃法ゆとて

あ流すまいハ力及りしに世ゑ人くにとりてハ逢坂関
不破の世きゝ侯麿すくうきせ世ゑあ〜〜清見ち
世ゑ乃ふこそとなゝ哀の世きゝ下ひをかけこゝ
まの世ゑ〜〜川ゝ泉うや見るめ代をゑあまらを
こめとして国こせきくく乃西こ方流をさ〜玉
て合力あるゑ〜宮廻久を軍ハ来廿七日ゑそ定め
々ゑさるゑとに九月廿日ゑまをゑをなを〜うハ
中鴨ゑはめんくつとひあつまをて云今家哀云
壹国をあとくをかさらふそこくの勢なるゑ
きうへよ久諸ゝまわきを大勢ゑ敷ゑ〜ときこえ
ゑゑ頼つる諸越後をうち云ゑ〜て一方乃大将
けゝう雑俵ちくいうしゑへ義神をたのむを

かゝゑ時乃ためそう〜侯吉弥方大明神へやさん
とて今宵ハ合戦敵ゑ乃与力壹国よりをゑのりて
こく乃ゑの多勢なるゑ〜と風安をうゑまくんす
一定さるゑ〜いうく清うまハ分へ義と中せを
弥方まわハ壹の一数さ〜侯ゝハさる任吉よりを
八幡一神乃ゑ事とて嬉吉所宮をゑゝうハ義
さまを月安社の清神あるひハ壹となわあるひを嬉
となを て警脇を引具してを向ひゝゑ西素を揆乃
思ひゑ人をたなゑ義をあをきて侯ゝくみ
うやまひゝゑゑりかゝうわゝゑ神恵なわゝに
云云云先宿乃合戦ゑ侯ゝ敵をたやをくゑゑもひて
ゑゑつ彦ゝゑたを逢ハ西素ハ用んふうきも

ふそかちいくさして弦太事ひうゆ弦和ふ逮とも
敵以八幡位右徹丈の沸勢をやりるとしく海たの
を引卒してむかえうとゆふ多輩乃いくさみたよ
うけきけて家右をうかりひ祇いくさ祇通自左乃
矢さ紀ふを伺りのうわわてたまうへ義守たう
為れけよふちいうわし脇のうとてうんたの
うう逮て志めら逮なをあふとあ弦へ義うれ為う
そも年か逮うへ逮てくとを志ふうを稜ともあつき
号よをきあふを引うへしてこをてさ海くふ
いうさ乃をうわあとをめくうしけふ山坂ふを
けう稜を新兵実むちや二うりるけて新兵をは小島
い海位ふさとにかうなきて弦わけををかく

昆沙門堂大弦大原沸うふ紡をへしよを世ていせん
を鳥の一数して去去う紡をひきうをちふうん
めんくくよこををたそく一うんをにかくにも!
を思ひくなれ利今家ものさやうふ伯位ーみうさへ
河原中ふうちおてひうへたらんを見くを時敵乃
志ほん一もかくむうをは位さのきんはる時一をび
きをひき城うーをて里てとはくうへうんうー敵
あまりと乃無勢を一のこに面位ふらんとかうん
する而をちりうくこうへて一合戦火をちうう
時流方八幡のはせい略籠脇乃はうふ接あひかへ
うへんあんよお遠して感へたくうひ感ちりちり
そきてよせてのいくさちとならん時うくう亜

所乃新兵衛ふを大勝のよそおひにて扇をそうし
さふらひうちあをせてもたをる〳〵馬つ稍牛つき
を聖さも門とをいふ屋〳〵すゑへふたまんけう
とろ〻と大原はしまりをの野わ〳〵ともみ
よこやに射あろうせ門よりはひ形て〳〵移れ餅臺の
餅よせん宮いへをめんく〳〵ふうんひとそ用し
〻ふいくさ的日にさをめ〳〵のハ孤菌林よハ一き
ちいんの所ふ家死出を〻〳〵まんたふを著て今度
中賜をせめおとさすを宮いふてうへら〳〵宮金おし
祈水城のかく共所いく〳〵ふと笑念佛者ハ六字の
名号をくひふけ法花宗を妙法のの字をうさふ
新しふ書くれて知附祈宗とてくをらをうけ

たりあうふれ鶯ういく〳〵色赤色のまゆひをきて
くをらうりあいかまてきを〳〵毎ハやうみそ乃こ
ふりく〻ふ知附云山宗れもやう神よ星〻ひきうを
たてをくくりの道ふまんれ赤ハ亦よ知ふにうか物り世る
吳山金上ふ一〳〵て一投の死をけ〻を百万乃大所
加つてあまををうを摩訶迦葉のふひとをみせう
を附ふ世を迦葉よつけてをわまを西法眼義孫くん
乃妙心あわなんちにふをくをなる〻ひふ何雖り
勅しを不就乃仏化たん世りをーむるをあのまを
いへを志うしまりうのく〻高野和尚優婆掬多
以下ふくをわ弟しを今よさうを星を利くの死ハ見見
宗芸知不計北而及知解思量文字ふよ〻ひ発現よ

あり〳〵すひつきやうしてそなふをれそせ見る
為一志うわといへもいまさす成の孫よあらすまう
うふし宗れ神門あ教為一法宗何不懸といふとも
武男ふは孫相愛せう顔よお合てうんしせう後
合を教たんてさのミ別よ法なし沖ちうていせれ
もやういうく法む会仏い史をもうる男世今乃
附分わさく乃くもくちうあるを〻すとたた
ふまたを法死宗れ云さんいいうんあくうへせ
この合戦中ふ考いものてう所を法中へ者そとて
わうひ巻ら比ち九月下旬なも法東山紅葉して
委秋その真を内ちう孤巻林ふ考林ふ考ら酒をあ
たくめんと紅葉を左右上よ詩を記して緑巻を

ちうひなんと詠してけりとい所ちうんふくしき
日ミ和ミなるを大勢拝条乃車なを法屋ふもあて
しそ京花ふうう孫して史を鹿おもひを鹿乃毒り
みうちそふれなしこの母一の彩うく風の音
いり迷うわうをまふをこ〻わぬと和を毒う孫ら
まねを思をぬ母を長月やあ〻しまう暁乃
露を涙もさなう〻に忘を迷をそ為ら振乃胆涼れ
ていそふれうけ迷うち死しよ事いやくれ京思ひ
く父母妻子のかくへうを見を送ふよあるひい
うう孫を母を迷をて一一をなんと忘ゆひして
ひたたまふ乃我ら法かミを法きうてみふ和へうり里
毒のうるをうの小袖ふ一高を書そへて法うり

ゝ京こそあるべきなれとおもはれおよそ世の中の
をあつまりて去云ゝ方ゝは鴉大將
なりあくれば九月廿七日の夕方乃天よりそよきて
大なゝめてと炎を吹く敵を里毫城ひくゝ敵
なり鷺かさよハ是なるのゝ出てひうへたり矢合
をしめてよせてこそ思ふらるゝなまはいの
ふをもくみすくんでかゝ所時ちと引ちりそけを
かつふのれ而ゝ城ふうく里てむん毫をとつて
うへ一せ矢を出ーてうゝ鷺乃大納云ふう
せいみて大ゝ去云ゝよわゝちあひたり去云今
なさひあと思ひ切てもみ合うつけうこまいの
ちうへ一つゝ月をかちまけみえさるゝ

思ひのふよあゝよ敵方住吉の法勝よこあひゝ
入うへうまをこらへをしてくるをつと引ちりそく
鶏の海尅乃博士大勝なるまはいてうあをたむ
へ来ひくゝ月ふひく紀州爰しそのうまぬ所ふと
いふまくみよ勝三百騎をうゝ一足も去里その後
美鷺乃信濃ちゝ手にけあゝ勇士とくのお
あひあまをこのつをにうちあふて花をちらして
たくうひうへひちやをわちのうを迷ひわゝ
ふ一騎前ふれつをりのゝちたくうひおうをその
をさ海いうちまけせめたゝ中ゝ碁乃をんれうへ
而さひゝく弱乃足なゝ入みたまを鳳凰ハなゝ利て
八方を郡ゝり鬼鷺角雲ハ感をゝるひてあゝわを

弁ケひするそれらさらあるあるを似たり屋敷つけ
やふらまつ海ケ川はまくるまつひとをを踐ら
とたくうひさうをうまとるもみのさいたんこをう
ふなりて敵をいやまーみうさ形わられて多勢を
勝うかりしして知河きりをあーて一名字面瑞を
うり海くうをなうへく一面りふを玄玄あまを
見くゆひう記形ふ者ともうかはうりの大せい
いくりとあく敵りーやふらまてたのこはう一年
乃大ねうさいる子会さよを玄玄よ海さーふうく
らんをれいうかきりをぬそれせい又面をたうり
足けふをたてくあくうりまでの
あひはのとくうー小島今屋ふ里なとうりと又乃

うを和れそろくはくり絲たりを敵すーて
えいまふーてうかを南へ向て行玄玄いを勝三面瑞
をりあそ敵をりけや山りそうくお雲海をくうり小引
て行原殘昆沙門堂大海をを大原海ーの乃をより散く
射ふ大脇をいあるさ乳河原をみなをへ引有せハ
うかくり川りりひ記てらまてうをまぬあくに
物ねを同ふふり入し大勢よりりこめらまて
馬ふをかまたりーりてくくれ有なまは一方うう
やねりてうし海へつをぬを市川へ乃入てそをを
りてむのひりをーにうりあうりあ勇みるひりを
くをして中鴨のめんくくくりはをくをもれ
まんハ海大事りかとそをりりーうハ敵を

をかくひとへ[illegible]為満大将源義家なきうとそ
とめむ[illegible]為義云ハ甲斐計ゆて祇園林みてけりへ
里しふ歌はくひくせめ来るとやあらけきてせん
うとあく足よいをは[illegible]ていまいちよ
乃ち其為義は三乃山をたのこて平家をせんと
紀の地をさして為ゆく石を国の男山ふ[illegible]
きくら和寺乃浦れ[illegible]の警わさ里あひ[illegible]
熊野へをうかりいてれ表ふ[illegible]里ふをはく
ひて責ふれたらくををたつ[illegible]て為乃とくうり
たてこをを振しの城とゆ[illegible]ハ紀南世双の世川所
紀列才一れ[illegible]ひな利峯ハ中天れ雲をさ[illegible]
さ[illegible]ハ壁立万仞也乃ぬたひ[illegible]

まてハふれそこのみちんとならんすうさひ
ふくありしふをよち惑ハ斜ふ侍ふ一支ものつそ
せさかのそあハ百万をもふ色うこれとうやや
うんふくれ関乃きんなんを[illegible]くやと思ひたうき
たり去去この城ハて思へらく西素天下の静を
さ[illegible]ひ[illegible]をれらて一こにたゆくしめ
なん何糸と思しふうんのきしめとそをのを[illegible]
こ[illegible]ふ勢はきんあくををそくく山法をたたひ
て宮殿山りの[illegible]乃院ハて仏法僧をう
孫て云ふ純不動乃ちさひふあふく号矢にとり
まけなそう後去ふををたうまれらひうひなき命
なううへくあ連を易まいりていきての恥何事

うあまふこうん今ハ是をせんちしまとして直世
仕らんといへ。むこうんいひ合戦乃れたりけひすす
なる様よ京乃名者れ初終ハ
ふやとなーに又思ひよりハ法ハ
つるすーく目ハのハ
殺心のいんゐんとおもーめーとりらゐ海とふ
あゐうさくハ者うし孫ゐんゆにより昨夢といへを
思ひうさくれよけまとも
ふはあーれいとふへ表
そのたんてきまて也一さい善悪をへて思是ハく
事なーを也して善悪よつ
法ふをさーひんゐうまとそ也世を拾そのふ

海こうん物ハ四素りハ遺恨ハ海こうんと生
死の苦域をとゐ迷て安未世界よりゐ里たまたゐ
山城ゐ乃ゐんゐて作ゐめ山ゐうふ里竹ふ
激りーありかさせんらしまをゐ次ハ落餘の
一度一七日ゐ一三七日ゐを
ゐされハきうんをも見中てゆ
あひまりよ里ゐへた
ゐ里ゐ表表別ハ法名ゐ作
とそこのゐゐ法ハ
表表をゐゐとてとゐ
ふを大かゐ会仏者のやう
孫んゐゐをりゐく宿男と

法報應の三身定假中の三諦衆生本来の佛性百界
千如森羅万像は三字ふくれるなり云ふ玄の
ふ仏定諦法身妙来阿とは云ふ現立れ千佛假諦報身
妙来施とは云ふ来来れ千仏中諦應身如来阿の字
を唱ふまた八十八使の見惑九十一品の思惑塵沙
する阿の字を唱ふまた無始劫の塵沙の惑障を
乃し施字をとなふまた四十品の無明の根本を断
を三身といふ也法身八生仏一如の理迷悟不二の
性報身の妙法乃ち妙因乃仏應身を
八相成道の如来操出現乃ち法しやをく
て分別をしわを迷うくしてをくく法
門をしわ知たくのをさ阿弥陀ふ

法華上人をたとひ一代聖教を学といふとも無智
絶根の尼入乃ち身ふなり利て只一向に念佛を唱
ひをこそくへみ浄土宗とて錦西山ふまうをうる
それをなひうくしくは法つをうんをうし義理を
論じる念仏をして聴学の出家なんとのたやをくう
うく極へ義ふあるすりとより出家ハ文を法入
身ふ人へをたく往生相を指示乃ちあとをりおり
めてはゆしんへ宣云為阿弥施佛うとくく
さそれ品往生乃ち升きうをゆ時上品上生下品下
生のやういの祈ふそんそを云時ふ云上品上生ハ
開悟を指て往生とゆ世は口にをなふ義乃ちみて
をふ事ふいふ下品下生ハ浄土りを生をとりへを

あるひを八劫惑八十千劫蓮花りはくはまぞはは
乃蓮のこありうりて見仏ぞ法乃微笑をひらく
あとををすあるる天ゆをめ安書経下雨下生人を
蓮花中常安孫施観音祝法として雨絶れ蓮花乃中文
面乃しくくまして化佛化蓮薩来てたあり法を
とくぞ乃こたりて為阿孫施佛れ云ある言よ

拾示ゆうんとおりふ法こそ

地獄よおりれらめなをくり

と云あまいひとへに行ん姫乃平言ゆはそむさ
ひとなんてあるねん姫つを有り不審していー
地獄ゆれそれらめとゆはいあ時ゆをうれちされ
るふうけたまりわそもとからおそろ天地獄ゆ

れそるくはんてもなきるりれりあゆきさ
なのふうりや作あるるゆやうゆ天しなて
ゆ先哲乃きんもくをたりれ若歌の雨玲を明ゆ地
也天竺れ中意地獄よおりるめ何乃ふちんり
ひある時ハ馬脚蹄胎ゆ魂しを時ゆ地獄ゆき為よ
わらてうまを楽とれみゆる人天勝姫乃楽よりう
てあまを為ゆうひとれ無化りきを見て法縁ゆ
変せんうそ天竺れ乃ゆまるひるていくへれ我法
生ゆるうとそ足ひうゆひく苑者りあきみちて
くをけけいせんゆいまくう大出けるやうに
作ゆゆるりとりへたきよ勝芳ゆ根況上下ゆ化
他のやくハ先をいゆん地獄へれちー空思ひて

ひさやみ法中人へといふんあわうさくんとて栄
の戸北明く迄を松風乃ふちぬよつけても迎して
足と西方りたこりとと云るなくなこふひと
まてそ伯耆ちくに山城ハ合戦ふうち勝
て渕底ときこめ〜ふいのあ敷宿図ゝんけるつう
くうに世北変化をくるんけうふをも一合戦の
あわさ海遺骸うつとちうしし兵杖ちりをまひて
さをたちく里〜かまんふやうちふを庁時乃
うちゆとな利ていさつふをきう下に石のこ
ぬせり朔り紅表ありて世ひろよかまとも夕
ふを自骨とあつて郊原よりちぬといふ事い度
さう思ふまはく世るりあうさそなわうちたき

むりうを道心れうりてこうのかりい妻子ゝんそく
乃を北いふを耳ふいうれおうそ山きて楽伯ゝ原
松風やりく拍子ひしく安ゝけまを

北井よ我をむへ麦山乃さひ〜さ紙
今よりふらふ初のまつゝ歌

思ひよくのよりみをむなくてうの宮野山
ふのりの赤市伯をゝ孫ゝふ表玄思ゝけさるす
なまないのなるうそとそおありひさやうのの
仏表ハあまふをなくといふ西素なふをりはくく
うりんうん海道世乃事ゝうふ取てそれ〜を
をもに世をいとをんとて書てひお北をそい
俗氣ハ殘人ふこそかう伯をりへまいるうへた世

ゆきとゝけるに我もさんぎゝのふらん小法師景
あをあはせ付らまいりくの若武者ゆそをうつ
をそゝらまんよりむへ義命にあらはといへと
このうへいとそあいめんを西素玄う替至る
そうをを見て涙をふりて云ありがさくは朝敵
むかんんの名せをきたりを為をたゝひ対をう
ゝくうゝ。あ我ゝ実方ハ我おう一数をしそはお
我我も名をけまいりくををうわかをはる成ふ
色をせんちゝをとおかめりとりて沸とんせい
は如ともやはをゝ我ゝうをの合戦より世乃
ありさ海をあんはるゝ今月月孤ハ的月月ゝを
をひなまは一とゝてゝ法乃をまるゝ月月

ゝ九七月八ありさ海殿法経をふさ紀血聖系を
ひをせゝとゝせめ一人ふ海するむく升面却子却
あを尽しかくゝ月えんゝるのやうふ思ならは
とくくゝ出家浮ゝまりらんとといふはゝハとて髪
を我ゝ衣をきせゝられハあまゝを自警阿弥陀佛をて
つきふゝふちとひをゝひふまゝともをはくゝと
てゝまゝ法ゝゝちんちやうなる孫門対をあを生
なるゝふ白妙の袖ゝ雲をあハゝ衣ゝゝやゝゝうへ
いゝまゝむうふ定なを拍れ月ゝハ書乃鑑よ志
ミゝ人里海あをふ思いまうゝる巻ゝむの里掠ハ西
ならせをいとひなゝうゝ生ハ乃名家ををそをれハ
ゆへをよやゝ有常位の紀上ハ法のをを彩へ義を

あくるの日の夕べ、さる鷺が烏に語りけるは、
「ものらしくなんそうろうなれば、いかがいたしたもうべきや。志かまさに利生門より出家仕りたくやく
そくなれば、髪をそり衣をきて、袈裟を掛すべき色あらして
黒よりは、法色黒白あるべきのみにして、鶺鴒一味乃法
をあらそいたくはかえさるべし。三井寺山門乃ためにあらず。繼子乃
里にうせ、流浪あるべくば、方々に退散せしかるべ
し。修学者一人、彩羅乃法宝おのおの系里てふくわうる
乃儀をもけるはいかがいたしこれいの法味をはく
ぶ通和ちさるべし。法愛恩よりなんちかけくすあの
まこの艶逆乃和光方便のためおかりて一人、井山流

無上菩提心をおこしこれおかりて日吉山王を我
も大乃剣表をさるべき門の儀をもこひてもあ
りけりと志めし給ひあるべしかの今宵の合
戦も賀茂祇園遇法縁をもりつく我おもあれくたら
三ぬく三ぬうしのみちひぶ竹ふ祈願うとあり
くはいて液をあの世は鳥の弥施佛まよく
とそとも不祇をそこりりく鳥あこ法ぬつえけ
うやいうへへ色を色をうそしるの歌乃自他
乃衣一ふして鶺鴒ら液をれおかくを仏法偽の
色事に衣如一色也誰う黒白を論をん法乃立相
所わ何そ善悪をまうたんせんつるおまあていや
さ一色黒白の義論を所ふ厨泮乃我物たかく

したうひ小寺尺脇羅のいふ小ゝ成里をあ
今ハ世ニ乃仏俗と成て上ニ彼世ハ
ゐんすよ為こひよあへを善悪不二彩西一ゆ思ゐ
を世作といへいおかくわるのゝ作とそよろ
こひゝ為かくて三年ハ此世ハ秋世月
わゝ小まゝ分ゆゐの者ゆ月まゝ木乃葉と見けゝま
て安も祝をう彩ゆ作ゝりのあそれなる和を世
ゝ屋山ゐ夜草庵中白髪善鑑万意定具義意拙庵
假夢万年仏事樹頭風といひ一白居易源在の
頌思出ら世作ゝ事氣膚をいさまゝめ焼紙として
魂をけ正茶をなく酒もゆ分ゆ又飯をなるとも
世ゆ世う一信の中小弥仏ゆ彩ゆ為ゆ

ゆうかくゝ世思へ共口ちうゆ為ゆとそへ鼻なゝ
てをあゝハしそ服中をゝ成ゝと成ゝく紙事
のらゐなゝるゝ小生俗ハくゝ人ゝゆ者いや意しゝ
きん為阿弥陀佛云今ハ俗孫き迷ゐ迷て世ゐれ
ゆにゐ世てあやう紀而なゝるとゝ高野山乃聖
乃東ゐれいゐや国をゝめゝうて世をを度く成し
いゝ迷ゐ仏ひとつなゝ世ゐゆめつゝゝ義而もあゝ
ゐ去りゝ度をむをひく云いかゐ乃田地りゝて
田為ををひゝていうへをさくえ秋ゝ山家村里れ
をゐのをゝをゝて稲ををゝわゝかゝをゐひゐいて
いよく仏様と紹隆せんといへゝ鷺の弥陀仏氣
ををんゝそ云実方へなゝ孫家ゐそつゐゐ小ゝれゝを

ぢぬるものとのこゝ作らるゝそや祢の話より驚雷
ふるく因文あるゝすの月戸花他より似すなんと云て
我くをかゝるとく祢をはうのくひゝ元念仏より
えんありてけ山ふ住す爲祢弥施佛云我ふを后智
の八方密接宮中に爲弥をいくく銀河波座より荒猫
をおけとい警あこたれ云まゝ川山ふれ事を沸
安ゝへ女分の田地い川まの雨ふのある家生山田
地より海ふてこそ生死ふをちんまんしゝへ又山
家林里れを海ふいの祢れおもむさんや山義勢を
と主は漢義勢をゝる農郎農夫乃ゝるまひ沼山和
高乃佛祖物布のすゝ如祢ゝ十成苦を使く主ゝ
そくくとんゝ世ふ教祢ゝ法祢乃一理とう

く作ら主ゝへ座ゝは世つゝいのなゝふふ
や当世の祢を見るふ偏より地獄乃来とのこ笑えて
いよく依祢淳去乃みすくみいもとすの祢ハ祢
大意乃法ふゝゝて候せんふはゝうへゝ教
ふゝ主は未世とゝいへさゝる名近のみこそ多く
やゝら主ゝへ見ハ邪見乃たゝひあとふ五俗乃祢
をすれ海ふこゝ主は祢蛇うんうんゝゝとを
ゝゝ法惑ハ相より極々乃惑ハをふ祢て知識乃人を
もかめゝ教ゝゝやを法をふ未来祢ふ龍乃傳
座ふ川て先法の法則を座山より安知乃男女あつて
法乃祢西をゝんをとゝあり今山時代よあひあゝま
里い川主をめくれ百祢を口ふまかれ百法門

をにあふゐの乃あさ[illegible]ふむ[illegible]ましてゆ[illegible]広ゆて
鳥ゆをそうしまんすませゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
一ゆはゆゆ乃産孫をををゆゆやき塩計乃一飯をを
ゆとこれゆいまゆ[illegible]て孫白ハ僧乃芝花を云俗
羅乃数を月をさすゆひとてあまをきらひたく祖
師の云白きいるとつゝゆ門をたくゆ妹として芝を
をさなゝふゐんきやくすゆ字ゆをせゆうゆ利世
いたゝうゐうゐあゝは繋若のゆちえんある
へ寿ゆゝくゆしくきゆ孫宗ハ地獄乃孫とやむす
ふらんゆゐゆ字乃みゆ[illegible]てなん糸不足ゆ字とて
ふとんのうへをゐんゐうゐ芝ゆさたのかきりを
をてゆ東磨の安仏倡ゆ事上ゆゆ解若氣力ハ

と云ゆゆ字を解ゆゆ若ハ若氣力よりとゆ
さとりゆくさゆ文字ゆ量六をうくゝそ乃へゆふ
ゆまゝて不解ゆ字のきまを花を云てハ世量ゆ
惑ハ尚ゆゆ法を足花をゆゝと云ゆ方を一芝れゆ
を一芝ゆうゆをと云ゆゆ他宗他門乃猪ゆあゝ法
ゆさうく忍まは我宗ゆいひ僧ハゝるゝとの業を
ゆゝすやゐゝぬのゝなゝて焼ゆゆいひゆいゆ
猪ハ芸花のさゆゆ激ゆ思ひゐゝまゝゆゐし僧
ゆゆゆゆくをゐゆいと有しゆ因果撥無乃猪ゆ孫
宗石利法世の悪知識ゆゆゆゆゆゆ立てをゆの
成乃理ゆ立へ業そゆをゐるゆを世俗ゆを地知
ぬゝそ活計ゆまゐんゐゆひそうゆこら孫を猪舌

獄のれをれ[illegible]ぬをとこみ字をもひとりのみき
らふみはあるを一度さとるうる人ゆ乃学ゆまた
ゆ力梅も鬼より分さいとう成るを一生涯れ禅の有
拍をふゆんをされとしてきもめて不審不善也大
なるハ大みつき小み新也おそみ小につけ逆ふたりひ
義よそむくを君乃あさうる役みられ号失れ道乃
為なるを坊妙加ま一度禅法をき明して念仏をす
をを一尚世殊よたや新神明熊野乃そう世いれ
腎虚福執疾をうたらるんういらやうりんを見う
らうさうら引をりひやうを海禅法きとり法門
伽こそ結及言白ハあほ多れと常にさえつる白よ
りてハ純漢蹴を了奠高頻徳磨かされ三十棒及

ふれてハ伽こそ高弟の一白海及上を撃竹拍下拍
て上倩女離魂祖師西来雲門乾屎橛牛意擂及伝君
ほふれるを向上向下理解撈関刃八識をもを里を
九識乃禅よ刻善を徴しえさる結及をもく唱へ法
世界理ものかくのこそれ輩ハ人里て大衆謙
傍乃罪をえんこそ滅まるれ念仏佛者をは小衆を
てさへせみ抜そくい妙院乃院約を一期恵
逸ふ行ふ海一度地獄のう毎庭かたんふと沉
てを後ハよ城をり足をするとてを誰うをて色を
助ま一法宝以を孫施仏者かくれしきれ拍恵を
法縁乃一念仏海を心海を迷を教を
志海を引拍を表とくく社生し妓楽歌詠乃変

立て来迎の雲よりむかうていりあやくんの孫
宗乃地獄顛倒をん殊よりゑ霊乃ひくよりをれう海
をて寄うとれらせもや南無三宝れ世中やくか
孫とはれらて紙をいる物をを会佛ゑてい何ゑ宗俗
ら迷いくて只会仏を法中作ゑ〜なくゑを知ぬ中
ゑ法門をとをゑ廻よりてをう迷くん鶏乃海剣
恪士ハくて来弟孫宗ゆて後よ横孫を世を自己れ
愚童くくしくりーときくしふのくめて宗俗の
ゆゑまひ及れ上乃くさらふ誠に死中ゆ話をえた
れ苟とみえくり共方ハ口ゆを孫と法唱へえれは
ん之何篇ゆなくをや道心ゆへけくゑりとりへを
為阿弥施佛液を流しあせをくのめて今ハ何を張

中へ義ゑくくく信氣れうくひいしゆゆひやつ
とゆ出しくくん一ゑあやゆられハいてのてう北を知
ゆをえんりんふう即芸挑成ゑ〜をくんふくんは
して奥院乃くさりくゆ庵宗を孫てた寄う一ゑん
ゆ会仏中て絶よ山中をゆれ行業とく移てともに
七旬よ他里大法生れ素懐をゑけゑふこて誠よを
雖けまそれ万数てんをれくくりわいゆふれ文よ
いとくゑ乃ゑくれを盛有行乃の弟ハをそれを井に
拵ら迷ぬ角〜朔ゆ栄苑をひくくりの夕ゑ無常乃
風ふいくまーむ昨日ハ累金乃家をかこ孫輩今日
をを海の藻よ化を他そせつかれすくくを孤して
焼ふ三途永くゑ乃苦をまねんや出おの快楽を万

却乃混沌況圖溟不定のうひよ初めてとや色を
染いろ水三界乃果報を苦をりつく味とす六乃
里ん えを会にまりて生をうを人るの百事見えを
ひなくくまてもあ縁う也九弱冷の闘浮せうせき
一ふあ〳〵すとい人世上乃形わを観いるにい川迷
の実あ報自他乃而形を思へえともにみあやは迷
里感いれらり惑ハひかゝ酒ふよはよへ里なんそ
去云う嗚呼にしくならんの多を辺ケきすを志感
して人世れあやまりあるを事ををめい勿已

鴉鷺物語下終

国立国会図書館　タイトル『鴉鷺合戦物語 : 3巻』 請求記号 WA7-157
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『鴉鷺合戦物語 : 3巻』 請求記号 WA7-157

ガラス使用